

## 山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録

会議の種類	令和7年度第2回山陽小野田市健康づくり推進協議会		
日 時	令和7年11月11日(火) 18:30~20:00		
場 所	Aスクエア2階1A・1B		
出席者 (17人)	全国健康保険協会山口支部	尼田 剛	(委員)
	山陽小野田市連合女性会	井上 幸子	(委員)
	山口県精神保健福祉士協会	植木 亨	(委員)
	山陽小野田市立山口東京理科大学	恵谷 誠司	(委員)
	山陽小野田市健康増進計画推進委員会	小柳 朋治	(委員)
	山陽小野田市母子保健推進協議会	高木 理代	(副会長)
	一般公募	土井さつき	(委員)
	山口県栄養士会	中野 恭子	(委員)
	山口大学大学院医学系研究科	長谷 亮佑	(委員)
	山陽小野田市民生児童委員協議会	林 令子	(委員)
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半矢 幸子	(委員)
	山陽小野田市自治会連合会	平中 政明	(委員)
	山陽小野田医師会	廣田 勝弘	(会長)
	山陽小野田薬剤師会	松垣 裕明	(委員)
	山口県理学療法士会	三戸 洋	(委員)
	山口県看護協会小野田支部	山本 浩子	(委員)
	山陽小野田市社会福祉協議会	吉岡 智代	(委員)
欠席者 (3名)	山陽小野田歯科医師会	嶋田 修士	(委員)
	一般公募	中川 正治	(委員)
	山陽小野田市立小学校校長会	間惠 満貴	(委員)
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター	野村 洋子	
事務局	福祉部長 尾山貴子	福祉部次長兼高齢福祉課長 田尾忠久	
	健康増進課長 山本玄技	監 大海弘美	
	健康管理係長 山下弘	食育推進係長 加藤諭香江	
	健康増進係長 伊藤比呂子	子育て支援課子ども家庭センター主任 山本真由実	

	<p>1 福祉部長挨拶</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 令和6年度健康増進課事業実績報告について (事務局から説明)</p> <p>質問・御意見等ないか。今説明があった地域医療対策の休日当番医については、医師の高齢化が進んでおり休日当番を担当できない医師もいる。小児科は宇都市と合同で休日・夜間診療所を行い、内科・外科系は市内の医療機関で回している。医師会でも救急医療をどのように維持していくかを協議している。</p> <p>(2) 令和8年度健康増進課事業について（健康づくり地域職域連携推進事業） (事務局から説明)</p>
会長	事業内容の(1)は申込企業が1件だったが、申込には至らなかった企業の反応はどうだったか。
事務局	令和6年度はこちらからの働きかけができず、申込んだ企業は自主的に応募された。令和7年度は小野田地域産業保健センターや商工会議所との連携で企業を推薦してもらい、保健師や管理栄養士が数か所訪問を行った。こちらからのアプローチを行った結果、数件反応があり事業説明をすることができ、事業につながった。
会長	産業医や保健師がいる企業は健康づくりが進めやすいが、中小企業は難しい面もあるようだ。協会けんぽで何か意見があるか。
委員	健康は自分事として捉えにくく、亡くなつて初めてその重要さに気づくことが多い。令和6年の出生数は68万人で、推計の72万人を下回つており、20~30年後は労働人口の減少が見込まれる。現在65~69歳の就業率は54%、70~74歳では34%で、いずれも10年前と比べて10%以上増加している。高齢就業者が増えている現状を経営者に話すと自分事として捉えられやすく、高齢者の健康管理、健康づくりへの関心が高まる。また、団塊ジュニア世代である50歳が人口のピークにあり、いかに長く働いてもらうかも重要である。健康対策以上に労働力の確保や現従業員が元気に働く環境づくりが課題となっており、その観点からの働きかけは経営者にも受け入れられやすい。協会けんぽの取組としては、企業が多数ある中で、商工会議所や企業団地の集まり、建設業などの安全衛生会議に対し、出前講座の実施を依頼している。さらに、中小企業でもストレスチェックの実施が進む方向にあり、地域産業保健センターがストレスチェックやこころの健康面に対応していることから、連携して出前講座を実施している。
委員	例えば中小企業が健康管理などで成果を上げた場合に社会保障を軽減するなど、インセンティブがないとなかなか進みにくいのではないか。従業員の健康管理によって医療機関の受診率が下がれば、保険料を引き下げるといった対策はできないか。
委員	健康経営に登録している企業は県内で1,500社ある。経営者の考え方

	次第だが、禁煙した従業員に奨励金を出す企業もある。また協会けんぽでも食事を撮影するアプリの実証実験に参加した。面談は相手との時間調整が難しいが、アプリならいつでも対応できるのがメリットである。効果が確認できれば拡大したいが、現時点ではその効果の検証が十分にできていない。スマートウォッチやアプリを活用した健康づくりの有効性については、本協議会でも協議したい。インセンティブに関しては、アプリにデータを入力するとポイントを付与するなど、アプリの活用を促している企業もあるが、やはりインセンティブがないと健康づくりの推進は難しいと感じている。
委 員	協会けんぽの保険料率が上昇しているのは、高齢化に伴う医療費の増加によるものだと思うが、スマイルエイジングを推進することで、将来的に自治体単位で保険料率が低下する可能性はあるか。
委 員	保険料率は実際にかかった医療費を反映している。高齢者の割合が高い地域や所得水準が高い地域では高くなる傾向があり、地域格差を考慮した設定となっている。
委 員	高齢者の健康も大事だという話だったが、市内には 11 地区あり、高齢者が集まる会が複数回ある。これらの場で体操や講話など高齢者の健康管理に関する講座を市でやってもらえるか。健康になれば医療費も抑制されると思う。
事 務 局	市ではスマイルエイジング健康講座の中で体操や講話をを行っているので、ぜひ活用してほしい。
委 員	年 2 回、75歳以上の方が集まる機会があるので、今後は健康に関する周知も進めていきたい。
委 員	スマイルエイジング薬局は 10 薬局となった。どれだけ貢献できているかわからないが、薬局は医療分野に関わることが多く、今後は特に予防への取組を強化していきたい。スマートウォッチを活用した健康づくり事業への参加は現在 1 薬局のみで、参加する市民もまだ多くないが、スマイルエイジングウォーキング事業など他の事業と連携し、健康づくりの普及を図ることは、今後のスマイルエイジング薬局の役割として位置づけられるのではないか。
会 委 長	働いている方の食生活についてはどのような取組があるか。
	食推の取組は高齢者向けの食育が主となっているが、今後は若い世代への情報提供にも力を入れたい。ただ現状では、時間を確保してもらうことが難しい。家庭の毎日の食事で、団らんの中で食事を楽しんでもらうことが重要であり、スマイルエイジングの普及にもつながる。食推として企業への展開は未知数であるものの、集う場を持つことは大事で、仲間の存在が励みになると感じている。
会 委 長	市でも、子どもを含めた家族で食の取組をすすめる健康フェスタなどのイベントを実施しているので、働き世代の家族が参加できるイベントが増えることもよいと思う。運動面ではどうか。
委 員	理学療法士会では昨年度から企業への介入を開始した。実際の職場環境や作業動作を確認し、労働生産性や潜在的な生産性低下を数値化し

	<p>フィードバックしている。その結果、1年後には企業内で体操を再開することができ、気付きを与えて行動変容を促す流れが作りやりやすいと感じた。市でも企業へのヒアリングを実施しているが、専門職としての視点から気付きを提供する活動は、取組として受け入れられやすいのではないか。介入にあたっては、企業側の時間に合わせる必要や、話を聞いてもらえないなど大変なこともあるが、経営者や健康経営に理解のある担当者と対面で話すことが重要である。従業員50人未満の企業では、インセンティブがあるとさらに取り組みが進みやすいと感じている。</p>
委 員	<p>女性会では、人と人の生き生きカレッジを年6回実施し、食や運動、防災などの出前講座を活用している。今月は生涯学習フェスタを実施し、その運営を手伝っている。</p>
	<p>(3) 第2次健康増進計画進捗状況について (事務局から説明)</p>
会 長	<p>質問・御意見等ないか。医療機関に通院中の方には、診療でレントゲンを撮っていれば、あえて肺がん検診を受けない方もいる。子宮がん・乳がん検診などは無料クーポン券の実施や受診体制を整えるなど、受診率が上がっており受けやすくなっていると思うので、他のがん検診でも工夫すれば上昇につながるのではないか。</p>
委 員	<p>妊婦の喫煙率と飲酒率が下がっているのはよい傾向である。人数になると1人～2人程度ではあるが、これを継続してほしい。山陽小野田市の平均寿命や健康寿命が低下している要因の一つは、がんによる死亡が多いことである。がんの早期発見、早期治療の観点から、がん検診の受診につながることが望ましいが、周知不足に加え、行動変容が進まず受診につながっていない。山陽小野田市では、大腸がん検診や前立腺がん検診のように、負担が少ない検診でも受診率が低い。大腸がん検診については、精密検査である内視鏡検査を受けたくないなど、精密検査の受診率が低いことも一因かもしれないが、そもそも大腸がん検診の受診率が低い背景に、受けにくさなど受診率向上を妨げる要因があるのではないか。同様の数値が何年も続いているため、取組の手法を見直す必要がある。</p>
会 長 オブザーバー	<p>(4) その他 特になし</p> <p>オブザーバーから本日の協議に対して御助言いただければと思う。宇部健康福祉センターでも、地域職域健康づくり支援事業に取り組んでいる。特に50人未満の中小企業では、従業員がどのような健康情報を求めているのか把握が難しく、情報の届け方に苦慮している。現在、健康経営に取り組む企業や保健所が関与している企業に入り、現場の生の声を収集している。得られた情報を整理し、ヒントが見つかれば市や関係団体と共有し、企業との連携や情報発信など、今後の取組みにつな</p>

げていきたい。私事であるが、病気になったときは自分事として受け取めるからこそ周囲の声を受け取りやすい。気持ちが傾いている時や自分事になったタイミングで多方面から情報発信があると、情報が身につくと感じた。行政だけではなく、各団体が様々な形で情報発信を行うことで、その人にとって自分事となる場面が生まれる。引き続き関係者とともに取り組んでいきたい。

### 3 その他

- ・SOS健康フェスタについて（小柳委員から説明）
- ・スマイルエイジング強化月間について（事務局から説明）

質問等は特になし

(閉会)